

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0272500844
法人名	社会福祉法人 奥入瀬会
事業所名	グループホームたんぼぼ
所在地	上北郡おいらせ町沼端370-1 (電話) 0178-50-1560
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年11月18日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.2人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	330 円	昼食 330 円
	夕食	330 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険おいらせ病院、木村歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地の中に立地しており、四季折々を感じられる環境である。幼稚園や介護施設等が併設しており、利用者の楽しみとなるよう交流を図っている。「その人らしく生活して頂くために その人の生きがいを見つけ 尊重し 思いやりを持ってケアします」というホーム独自の理念を掲げ、その実現に向けて全職員が日々のケアを提供している。
看護師の資格を持つ職員を配置し、医療連携体制を整えるほか、入院等による空床を活用してショートステイを行っている。また、通院を支援するなど、利用者や家族、地域の要望に柔軟に対応している。
地元の食材を多く取り入れるなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。また、職員も同席し、会話を楽しみながらも、食べこぼし等へのサポートを行っている。

【特に改善が求められる点】

災害時に備えた備蓄品は、ホーム内に用意してはどうか。また、地下水を利用できない場合が考えられるので、ペットボトルなどの飲料水を用意することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を基に、改善策について十分話し合うなど、より良いケアにつなげるよう努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は、評価の意義や役割を理解しており、自己評価は全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、行政職員や民生委員、町内会長等が参加しており、情報交換や自己・外部評価の結果報告等を行っている。会議で出された意見は、今後の運営につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時や電話等で、利用者の暮らしぶりなどを家族に報告している。面会は家族とのコミュニケーションを図る機会と捉えており、意見を聞くよう努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口や苦情解決方法等を重要事項説明書に明記し、家族に周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	住宅街から離れた場所に立地しているが、地域の行事に参加したり、市日への買い物や敬老会に出かけている。隣接しているデイサービスの利用者との交流を図ったり、幼稚園児の訪問やボランティアを受け入れるなど、地域に開かれたホームを目指している。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	ホーム内に理念を掲示したり、復唱してから業務に当たるなど、理念の周知に努めており、職員は理念を日々のケアに反映させるよう努めている。 高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設定し、全職員への理解を図っている。また、委員会を立ち上げるなどの取組みにより、虐待を未然に防ぐよう努めている。 運営者は、職員の質の確保・向上に力を入れており、ホーム内外の研修計画を作成し、職員を派遣している。受講後は報告書を作成し、全職員に周知している。また、業務に関する相談は、法人内の看護師等が対応している。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用者や家族が安心できるよう、相談受付段階から意向や要望等を把握するよう努めている。 中庭での野菜作りやカレンダー作り、小鳥や金魚のえさやり等、得意分野で力を発揮してもらったり、職員が教えてもらうなど、支え合いながら暮らしている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	介護計画作成時には、理念を反映させた計画となるよう努めている。また、利用者や家族の要望、職員の気づき等を取り入れ、個性のある内容となっている。 入居時のアセスメント等から、一人ひとりの受診状況を把握している。利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援したり、協力医による週1回の往診を受け入れるなど、いつでも対応できる体制を整えている。 看取りに関する指針を策定し、利用者や家族、医療機関との話し合いを行って、意思統一を図っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	理念に謳われている「その人らしい暮らし」を支援するよう努めている。一人ひとりのペースや思い、習慣等を尊重するほか、その日の体調にも配慮したケアを提供している。 利用者の希望を取り入れ、年間の行事計画を立てている。市日への買い物やさくらんぼ狩り、ぶどう狩り等に出かけている。また、お盆には墓参りへの支援も行っている。 全職員が、身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族の同意を得たり、理由や経過等を記録する体制となっている。

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、「その人らしく生活して頂くために その人の生きがいを見つけ 尊重し 思いやりを持ってケアします」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示したり、復唱してから業務に当たるなど、理念の周知に努めており、職員は理念を日々のケアに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	住宅街から離れた場所に立地しているが、地域の行事に参加したり、市日への買い物や敬老会に出かけている。また、隣接しているデイサービスの利用者との交流を図ったり、幼稚園児の訪問やボランティアを受け入れるなど、地域に開かれたホームを目指している。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価の意義や役割を理解している。自己評価は全職員で取り組むほか、改善策について十分話し合うなど、より良いケアにつなげるよう努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政職員や民生委員、町内会長等が参加しており、情報交換や自己・外部評価の結果報告等を行っている。会議で出された意見は、今後の運営につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にホーム便りを届けたり、外部評価結果等を報告している。また、必要に応じて、利用者のサービス向上のための助言を得る等、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度等について理解を深めている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設定し、全職員への理解を図っている。また、委員会を立ち上げるなどの取り組みにより、虐待を未然に防ぐよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族が不安、疑問等を話しやすい雰囲気を作るよう努めている。また、ホームの理念やケア方針等を説明している。退居時にも説明し、同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等を毎月報告するほか、受診結果はその都度電話で報告している。また、金銭管理状況は領収書を添えて報告し、職員の異動についても、家族に伝えている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は家族とのコミュニケーションを図る機会と捉えており、意見等を聞くよう努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口や苦情解決方法等を重要事項説明書に明記し、家族に周知している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、異動による利用者への影響を理解している。異動等を行う時は、利用者に説明するなどの対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に力を入れており、ホーム内外の研修計画を作成し、職員を派遣している。受講後は報告書を作成し、全職員に周知している。また、業務に関する相談は、法人内の看護師等が対応している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し、他事業所との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心できるよう、相談受付段階から意向や要望等を把握するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	中庭での野菜作りやカレンダー作り、小鳥や金魚のえさやり等、得意分野で力を発揮してもらったり、職員が教えてもらうなど、支え合いながら暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションから、一人ひとりの思いや希望、意向等を把握するよう努めている。また、利用者の行動から思いを読み取ったり、家族から情報を得るほか、職員間での話し合うなどの取り組みも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、理念を反映させた計画となるよう努めている。また、利用者や家族の要望、職員の気づき等も反映させており、個別性のある内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月ごとに見直している。また、状態等に変化があった時は随時見直している。見直し時は、家族の意見を聞くなどの再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持つ職員を配置し、医療連携体制を整えるほか、入院等による空床を活用してショートステイを行っている。また、通院を支援するなど、利用者や家族、地域の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のアセスメント等から、一人ひとりの受診状況を把握している。利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援したり、協力医による週1回の往診を受け入れるなど、いつでも対応できる体制を整えている。受診結果は、その都度家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を策定し、利用者や家族、医療機関との話し合いを行って、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定せず、尊敬の念を持って日々のケアを提供するよう努めている。また、職員は個人情報保護法について理解を深めており、記録物は他者の目につかない場所に保管するなどの取り組みを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に謳われている「その人らしい暮らし」を支援するよう努めている。一人ひとりのペースや思い、習慣等を尊重するほか、その日の体調にも配慮してケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材を多く取り入れるなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。また、職員も同席し、会話を楽しみながらも、食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴となっており、安全にゆったりと入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、声かけを工夫するなどの対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント等から生活歴などを把握しており、食事の準備や後片付け、わら作品作り等の楽しみごとや役割を、一人ひとりに応じて促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、年間の行事計画を立てている。市日買い物に出かけたり、さくらんぼ狩りやぶどう狩り等にも出かけている。また、お盆には墓参りも支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族の同意を得たり、理由や経過等を記録する体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、心理的不安や閉塞感等、施錠することによる弊害を理解しており、日中は施錠していない。外出傾向を察知できるよう、チャイムを設置したり、見守りを行っている。また、無断外出時に備えて、地域とのネットワークを構築している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2カ月に1回、利用者と一緒に避難訓練を行うほか、年1回は消防署の協力を得て実施している。災害時に備えて、別棟の倉庫に食料を備蓄しているが、ホーム内に用意するまでには至っていない。	○	備蓄品は、すぐに使用できるよう、ホーム内に用意してはどうか。また、災害時は地下水を利用できない場合が考えられるので、ペットボトルなどの飲料水を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して献立を作成している。また、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを整備し、必要に応じて見直しを行っている。また、職員は、勉強会を通して理解を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ソファや長テーブル、長椅子等が置かれており、家庭的な雰囲気となっている。また、職員の立てる物音は騒がしくなく、ホーム内の明るさも適切である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具を持ち込むなど、利用者が安心して過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。